

あしがら 農の会

通信 6月号

第122号 2012年 6月12日発行
発行 NPO 法人 あしがら農の会
ホームページ <http://nounokai.com/>
代表 松本 邦裕 090-1735-3748(携帯)
編集 石井 智子 0465-32-1467(TEL/FAX)
bombalurina@savanna.dti.ne.jp

地場旬自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO法人化)
地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配: 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会: 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会: 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会: 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

小麦の会: 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

有機の仲間たち と其の六

菜の花クラブの深澤と申します。

昔我山に沿う上曾我という地域に、その活動拠点である磯崎倉庫があります。私がおその倉庫に出入りし始めたのは、5年ほど前になります。長年の仕事を辞めた時、「やっぱこれからは農業だ」と漠然と思い込んでおりました。そんな時、ご近所の旧ママ友にばったり出会い、とんとん拍子に菜の花クラブを紹介されたのです。

菜の花クラブは、かつて小田原市の農政課が、農家の手伝いをする為の即戦力を育成する目的で農業塾を開講した折、ご縁があって1年間共に農業を学んだ方たちが、この機会だけのご縁で終わりにするのは勿体ないという思いから、最後の授業を受け持った磯崎崇氏に相談。その結果、磯崎氏の倉庫で月に1回集う場を提供して頂き、継続して農業知識や技術を学びつつ親睦と健康増進を図るといふ、いわゆるご縁で繋がる「縁農」ボランティアの『菜の花クラブ』スタイルが出来たと聞いております。

ちなみに発足は、平成17年3月です。現在メンバーは18人…発足当時からの登録で何故か加藤市長、元教員の方だったり、元ガソリンスタンド経営者だったり、はたまた現役お米屋さん、看護師さん、女性造園業の方だったり、多種多彩な人たちの集まりとなっております。

このクラブの受け皿になっていただいた磯崎さんは、お米が主体で、他に…春は菜花、夏は夏採りのトウモロコシ、秋には秋採りのトウモロコシ、そして冬はタ

マネギと1年を通しての農業生産をされておりますので、それらの育て方を学び、実践しております。

私はこの数年、本業の農家さんから見れば飯事(ままごと)のような関わり方ですが「農業」を体感させていただいて、農業を取り巻く問題は深いと実感します。難しい事は分かりませんが、販売農家は確実に少なくなり、自給的農家が増えているのかなあと、つまり業としての農業人口は、高齢化等により確実に減っております。したがって耕作されない放棄される農地の拡大は、小田原でも深刻だと感じます。また里山が荒れれば、これまでの動植物生態も崩れます。自然の全体の循環が崩れていくはずで、心配です。

そんなこんなを思いながら、それでも菜の花クラブの活動はワイワイガヤガヤ楽しいものです。自然を相手に思うようにいかないもどかしさ、辛抱強く、そして忍耐強く、体力勝負の仕事である現実を見て、自分が漠然と「農業だ」と安易に考えたことを恥じつつ、それでも種を播き、芽吹きから草取り、収穫を迎える過程は、本当に素の喜びがあります。

メンバーたちの元気とパワーは超一級品。笑いが絶えず、たまにはズッコケる…ここにご縁をいただいた事に感謝をしたいと思います。

菜の花クラブ
在籍
深澤 良子

